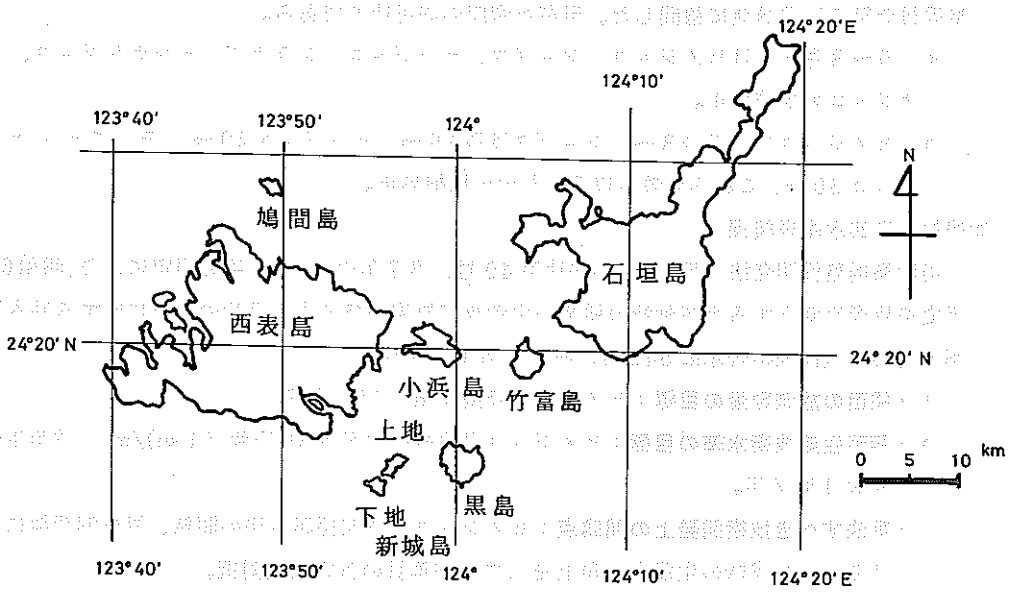

図1 調査対象地域

(1) 昭和58年度調査研究活動結果による現状及び問題点の概要

石垣市及び竹富町のシャコガイ漁業の現状を沖縄農林水産統計年報と聞き取り及び標本船調査により、把握するように努めた。結果は石垣島周辺のシャコガイ資源は枯渇に近い状態にあり、シャコガイ漁業には次のような現状や問題があり、早急に資源回復の手段を講じる必要性が生じている。

① 漁業者がシャコガイ漁業のみでは生計がたてられなくなっており、他漁種への依存率が高くなっている。この結果として、他の漁業種類との競合や他資源の加速度的な食いつぶしが生じてきている。(電灯もぐり漁への転向による礁池内の昼行性魚種の減少、タカセ貝漁への集中)

② 漁業者自らが漁獲量の激減原因は乱獲であると認めている。

③ 漁業者はシャコガイの漁業規制には大筋で同意している。

④ 種苗の放流や栽培漁業について、漁業者の関心は高まりつつある。しかしながら放流作業量が多いこと、収獲までの期間が長いこと、そして漁場の管理(密漁)を指摘し、本格的な実施には至っていない。

⑤ 加工業者は観光土産として販路は確保されており、原材料の不足のみを訴えている。

⑥ 品不足による価格の高騰によって飲食店及び一般消費者からかけ離れた高級品になりつつある。

(2) 沖縄県のシャコガイ資源回復のための対策

シャコガイ資源を保護回復させるため沖縄県の行政部門及び研究部門がとっている対策を次に述べる。

① 農林水産部漁政課

シャコガイの殻長制限及び禁漁期の設定を昭和58年1月28日の第12期沖縄海区漁業調